

研究所発足に当たっての所長就任の挨拶

渥美東洋

社会安全・警察学研究所 前所長
京都産業大学大学院法務研究科 元客員教授
(平成26(2014)年1月30日長逝)

曾て、我が国は、世界で最も安全な社会でした。今でも相対的にはその事態を保っていますが、我が国にあっても、社会構造、とりわけ家族や近隣のありかたの変化に伴って、人々の安全と安心は脅かされています。このとき、不安や犯罪と相関関係にある事情、つまりリスク要因やその原因を見究め、先手を打った改善・解決策を講じなければなりません。

幸いにも、ここ40年ほどの間に、世界、とりわけ、英語圏では、犯罪や社会不安の要因・原因を多角的に見究め、それへの介入・処遇策と社会戦略・計画を触発する総合科学としての犯罪学を発展させ、その成果に基づく社会安全体制を改善し、新設する試みが展開されてきました。

建学50周年を迎えた本学のモットーは、「持続した改革」です。日本で最初のものとなる社会安全・警察学研究所も、このモットーの下、着実に我が国で培われてきた安全策の伝統に基づきつつ、安全で健全な社会の実現に役立つ総合的な研究を不断に続け、そのための社会戦略・計画の開発に努めつづけなくてはなりません。

計らずも、所長を拝命した機会に、本学の関係者の皆様全員とともに、わが国の伝統に立脚しながら、我が国の社会安全と警察活動の改善と新たな開発に向かって、改善に役立つ努力を持続的に重ねることを心に刻むものです。

上記は、渥美東洋前所長が、昨年4月の本研究所発足に当たり、所長就任挨拶を研究所のホームページ上で発表したものです。本研究所の設立の趣旨を示すものとして、本誌に掲載いたします。

渥美前所長は、平成17年4月から本学法務研究科に在籍され、研究所発足と同時に所長に就任されました。本学着任以前の中央大学教授時代から、主として米国の刑事法運用をトータルに把握するとともに、政策学の日本における展開の必要性を指摘しつつ自ら実践し、犯罪への proactive な対応を含めた Criminal Justice を「社会安全」と位置づけ、日本の伝来の文化に深く根差した犯罪対応運用の在り方を探求し、その成果を世界に向けて発信し、現実の政策の改善に結び付けるべく精力的な活動に当たってこられました。

本研究所のコンセプトは、まさに、渥美前所長の多年の研究成果に基づき、それを発展させることを目指したものです。研究所の発足とその後のシンポジウムの開催等が多くの方々の注目を集めたことは、このコンセプトが今日の社会において広く求められていることを示したものといたします。

その文字通り道半ば、というよりも第一歩を印したばかりのときに急逝されたことは、ご自身にとっても大変残念なことであったに違いありません。

我々所員一同は、渥美前所長の遺志を受け継ぎ、日本で初の「社会安全・警察学」の研究所として、「安全で健全な社会の実現に役立つ総合的な研究を不断に続け」、改善に役立つ努力を持続的に重ねることを、渥美前所長及び皆様にお誓い申し上げます。

社会安全・警察学研究所 所長 田村 正博